
他人の空似

高橋なつみ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

他人の空似

【Nコード】

N4045F

【作者名】

高橋なつみ

【あらすじ】

高校生の上橋くんと高井くんは、親友同士。誰もが今違えるほどの「他人の空似」ぶり。だが彼らには、彼ら自身も知らない、ある秘密があった

高井くと上橋くんは、「他人のそら似」の見本だ。

長丸い顔に、細いタレ目とメガネ。柔道一直線な体型を学ランに包んだら、担任教師から親友までもが、一度は間違う。

ある日、英語の教師が二人に言った。

「おまえら、実は双子でしたとかいうんじゃないだろうな」

高井くと上橋くんは、顔を見合わせ、お互い、見えないキズに触られた瞬間の顔になる。

「あ、いや、実はちょっと」と、高井くんが答えた。

「内緒にしてたんですけど、事情があるっつーか」と、上橋くんが続ける。

「そ、そうか、いや、すまん」

教師は、詫びの言葉とともに、慌てて片手を上げた。

すたこらと廊下を去ってゆく教師の後ろ姿を見ながら、ふたりはもう一度、顔を見合わせる。

今度は、にんまりとした顔で。

「センサー騙すなよ、悪いヤツ」

上橋くんが、高井くんを肘でつついた。

「すぐ嘘だってわかるって」

高井くんも、つつき返す。

ふたりの笑い声がリンクした。

放課後

校長室では、緊急に招集された研究機関の職員が、校長、教頭と額を突き合わせていた。

「これはヒジヨーにマズイです」と、研究機関の職員が眉をひそめる。

「彼らはいつ、事情を知ったのでしょうか」

「私たちも彼らのご両親も、機密に関する内容は一切表に出ないよう、それは厳重な管理を、はあ」

校長が、額の汗をハンカチで拭った。

上橋くんが、100人近い死者を出した列車事故から奇跡の生還を遂げたのは、10歳の時だった。

折り重なる遺体や電車の残骸の中、彼は、右手をもぎとられた状態で救出された。何とか一命を取り留めたが、右手は、必死の捜索にもかかわらず、ついに発見されなかった。

右手を失った少年の将来を憂いた、その翌日

上橋くんが発見されたのと同じ車両から、少年がもう1人救出された。

誰もが驚いた。

なぜなら、少年は「上橋くんの等身大コピー」だったから。

もちろん上橋くんには、一卵性双生児の兄弟などいない。

その少年は、事故のせいで記憶を完全に失っており、しかも誰からの身元照会もなく、名前すらわからない。

同じ頃、上橋くんが入院する病院でも、上を下への大騒ぎとなっていた。

上橋くんに、完全無欠な右手が生えていたのだ

二人は、体の隅々まで研究された。

そうして半年後、上橋くんは、「等身大コピー少年」の存在を知らされることなく、普通の小学生の生活に戻った。

もう一人の上橋くんは、同じ事故で子どもを亡くした、高井さん

夫妻の申し出により、養子として引き取られた。

この時の調査結果全ては、国家機密並みの極秘事項として、封印されている

「プラナリアの再生能力を持つ少年、ですか」

教頭が、ため息とともに呟く。研究機関職員は、今後の対策を確認して帰った後だ。

「入学式の翌日、あの連中が乗り込んでくるまでは、単なる『他人の空似』だと思っていたがなあ。なんで、よりによって同じ学校へ来たのやら」

校長も、教頭と同じ種類のため息をついた。

「まあ、元は同じ人間だったわけですから、志望するものが同じでもおかしくないということでしょうか」

その頃、職員室の電話が激しく鳴り、そばにいた教師が受話器を取り上げ、「はい、高校ですが」と決まり文句で応対した。

受話器の向こうから、ノイズ混じりの緊迫した声が告げる。

「こちら ×警察ですが、そちらの生徒とおぼしき少年が、爆発事故で重傷を……あ、名前は高井……ええ、左手の指を三本吹き飛ばされまして、現在病院へ搬送中です」

了

(後書き)

私の弟と、弟の親友Iくんに捧げます。

この二人は、高校時代、友人や先生ばかりではなく、私の親にまで間違えられたというほどの、そっくりさんでした。

ちなみに、真正正銘「他人の空似」。

何の秘密もありません。

ないよねえ、ね。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4045f/>

他人の空似

2010年10月21日22時48分発行